

大熊啓実行委員長のあいさつ

皆さん、こんにちは。(拍手) 実行委員長、実は4年目。本当はこまえ平和フェスタの実行委員長は毎年後退して、いろいろな人がやろうね、とやって来ました。しかし、2020年に思いもよらないコロナの蔓延によってその年の平和フェスタが開催できなくなりました。その年の実行委員長が私だった。来年には治まるだろうから、開催しなかった実行委員長が交代するわけにはいかないねと、2021年も引き続き実行委員長をやりました。でも、ご存じのように2021年もコロナは収束しませんでした。でも、これ以上平和フェスタの歩みを止めてはいけないと、中央公民館の会議室を使って、オンラインで、インターネット配信で平和フェスタを開催しました。その時は見よう見まねです。どうやってインターネットに繋ぎ、どうやってカメラを立てるのかなどと言いながらやりました。そして、昨年はこのエコルマホールが改修工事で使えませんでした。そこで、西河原公民館で開催しました。それで、4年振りのエコルマホール開催となりました。コロナがあったり、インターネットの配信であったりと続いたので実行委員長を交代するのも大変だろうという事で、言われるままに4年目の実行委員長を務めさせていただきます。(拍手)



でも、インターネットを使った配信というのは、面白い出会いがありまして、狛江を引っ越してしまって今は東北や、遠くは沖縄で暮らしていますとか、今はアメリカで暮らしていますという方々が見ることが出来るんですね。とても嬉しいことですし、この狛江市を知らない人たちにも、狛江という町で平和の取り組みをしているんですよ、オンラインで観れるので遠方からでもご覧下さいとあって、今日も多分、東京以外のあちこちで平和フェスタをご覧になっている方たちがいるんじゃないかなと思いますと、何か胸がわくわく致します。

こうして、インターネットを通じて色々な情報が世界中を駆け回るようになりました。その中で、どれが本当のニュースなんだろう、事実なんだろうというのもいろいろ混ざって聞こえてくるのが便利でもあり、恐ろしい事でもあります。今、ウクライナにロシアが侵略をして、1年以上が経ちました。戦争は始まってしまふとこんなに止められないんだ、そのことを痛感している日々です。戦争はどう終わらせるのではなく、そもそも始めさせないことが一番大切なんだという事を、戦争に備えるのではなく、戦争を起こさせないためにどうするのか、それが課題なんだなあと感じています。

この戦争についても色々な情報がインターネットを通じて飛びかっけてきます。どっちが正しいだろう、どっちが本当なんだろう、われわれは自分たちで考え、自分たちで発信しなければいけないと思います。まして、インターネットの無かった78年前の戦争、あの時代には本当に何が真実で何が嘘なのか、日本が戦争に勝ち続けていると、みんなは直前まで信じていた。あるいは戦争はとっくに終わったのに、南方の島々で兵隊さんたちはまだ戦争は終わっていないと思って戦い続けていた。情報があふれ返った今の

方が幸せなのか分かりませんが、今から78年前に本当に起きていた戦争、そして今、本当に起きている戦争、あの時、広島と長崎に初めて人類の頭の上に落とされた原子爆弾、そしていま、使われるかもしれない原子爆弾。むかしのことを学びながら、今の自分たちと照らし合わせて、いま何を考えて、どう行動するのか、一緒に考える機会にしていきたいなあと思います。

こまえ平和フェスタは、狛江市平和都市宣言を市民の手で実行していこうとの想いで続けられてきました。この平和都市宣言の理念はのちほど朗読でも出てきますけど、日本国憲法前文とそして9条の精神に則っています。「平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼してわれらの安全と生存を保持しようと決意した」と憲法の前文には書かれています。みんなが戦争なんか望んでいない、平和が良いと思っている、みんなが平和な世界を作りたいと思っている、世界中がそう思っているんだという事を我々は信じて、行動していこうという事です。今日のこの平和フェスタ、長い時間ではありませんが、たくさん考える材料を私たち実行委員が一生懸命考えて用意しました。そしてロビーにも沢山の展示があります。今回は子どもたちが戦争を経験したときの話や、あるいは今、中学生や高校生が平和を学んでどう考えているのか、展示されていますので、ぜひ、若者たちが、これからの世代のこども達が、どういう未来を創っていくのか、そして私たちはどういう未来を手渡せるのかを一緒に考える平和フェスタにしていきたいと考えます。

どうぞ、みなさん、最後まで一緒に考え、楽しんで参りましょう。よろしくお願いたします。(拍手)